

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表										
法人名	社会福祉法人 松涛会	代表者	斎藤 妙子			法人・事業所の 特徴	利用者一人ひとりの人権を尊重し、住み慣れた地域での生活を継続することができるよう、地域住民との交流や地域活動への参加を図りつつ、利用者の心身の状況、希望及びその置かれている環境を踏まえて、通いのサービス、訪問サービス及び宿泊サービスを柔軟に組み合わせることにより、地域での暮らしを支援します。			
事業所名	小規模多機能 杜の宮	管理者	中堀 詔子							
出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	人	1人	1人	人	3人	人	9人
項目	前回の改善計画		前回の改善計画に対する取組み・結果		意見		今回の改善計画			
A. 事業所自己評価の 確認	<ul style="list-style-type: none"> 伝達簿、申し送り簿への記入漏れがないよう、同一様式のメモを作成する。 各自が自覚を持ち、しっかりとした視点を持った介護記録が書けるよう勉強会等で学んでいく。 		<ul style="list-style-type: none"> 同一様式のメモの作成を行い、実施している。 介護記録の勉強会を行ったが、内容に応じてまだ、不十分な所があるため5W1Hを意識しながら介護記録書けるように引き続き勉強会で学んでいく。 		<ul style="list-style-type: none"> 情報が確実に共有されるよう、伝達簿の様式の見直しなど記録の効率化も検討してはどうか？ 気付きがあったら即メモをし、時間のある時に伝達簿へ記入、1日の終わりにミーティングで読みあげることが良いと思う。 記録が上手く書けない理由は、5W1Hを意識していないからではないか？ 		<ul style="list-style-type: none"> 各自が介護士としての視点を持ち、5W1Hを意識しながら介護記録が書けるよう勉強会等で学んでいく。 タイムリーに口頭伝達を行った後も伝達簿に記録していくようにしていく。 伝達簿からの意味を、職員一人一人の捉え方などが違ってないように、毎日のミーティングや職員会議で繰り返し再度確認を行っていく。 			
B. 事業所の しつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議を有効活用できるように、職員に事前にアンケートをとったり、聞き取りなどを行いながら業務改善に繋げていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 毎月行う職員会議の中で、事前に「今、困っていることはないか?」「改善してほしい事はないか?」などを聞き取り、職員会議のテーマとして話し合いを実施している。 		<ul style="list-style-type: none"> 利用者への介助方法が統一できていないのは、利用者の不安、不信感を増すため、早めの改善が必要ではないか？ 		<ul style="list-style-type: none"> 利用者の介助方法等、統一していくために、職員会議にて利用者を2~3人ずつ知ってもらうための情報提供をしていく。 職員会議を有効活用し、事前に話し合ってもらいたいことなどを聞き取り、テーマとして話し合いを実施していく。 			
C. 事業所と地域の かかわり	<ul style="list-style-type: none"> コロナの規制が緩和され、自治会の活動があれば積極的に参加していく。 広報誌などを作成し、地域の方々に事業所の活動を知ってもらえるよう工夫をしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス蔓延防止のため、地域での活動はなかったが、子供相撲大会の観戦や子供神輿との関わりを持つことができている。 3ヶ月毎に「杜の宮つーしん」を発行し地域の方へ行事やイベントなどのお知らせをすることができている。 		<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で中止されていた地域団体の活動やイベントが再開された時は、感染対策を講じたうえで積極的に参加し地域との連携をより深めていただきたいと思う。 安岡自治体も状態、イベントを発信します。 		<ul style="list-style-type: none"> 外出や行動制限が緩和されつつあるため、感染対策を行いながら、外出行事や地域の行事参加ができるようにしていきたい。 「杜の宮つーしん」の発行を通じて杜の宮の見学などに繋げていきたい。 			
D. 地域に向いて 本人の暮らしを 支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> 利用者のご家族には、引き続き「杜の宮通信」を通じてイベントなどの情報を発信していく。 面会等の希望があれば、窓越し面会などを行っていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 利用者のご家族へ「杜の宮通信」を発信して情報を提供している。 コロナウイルスが5類になったことから面会が緩和され、随時、直接面会の機会を持つことができている。 		<ul style="list-style-type: none"> 家族への手紙の支援や民生委員からの情報収集を行っている点などは評価できると思います。 コロナなどの感染症の関係で施設以外へ出られず、地域との関係が持てないのは仕方ないのではないか？ 		<ul style="list-style-type: none"> 外出行事やイベント等が再開されれば地域住民と連絡を取り合い積極的に参加をしていきたい。 家族へは「杜の宮通信」を地域へは「杜の宮つーしん」を発行しイベントなどの情報を発信していく。 			
E. 運営推進会議を 活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議等で出された意見などは伝達簿などで職員全員が周知できるようにしていく。 管理者による個人面談を行い、振り返りができるようにしていく。 スピーチロック等を防ぐ方法として虐待防止委員会が中心となりアンケートを実施し、各自が振り返りができるようにしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議で出された意見などは伝達簿などで職員全員が周知できるようにしている。 外部研修(介護初任者研修・新人職員のためのキャリアアップ研修・職場研修担当者研修)に参加する事ができた。 虐待防止委員会を中心に自己を振り返ってもらうため、自身の行動についてのアンケートを毎月行い振り返りを行っている。 		<ul style="list-style-type: none"> 職員のスキルアップ不足、知識不足が非効率的業務となるため、研修を活用することで、改善されるかも知れない。 スピーチロックなどの場面を見聞きした時は、職員同士が注意し合える環境作りが大切です。 運営推進会議に毎回地域の方が参加し、緊急時等に地域からの協力を得られる体制が築けているのは評価できると思う。 		<ul style="list-style-type: none"> 外部研修への意欲がない職員が多いため、スキルアップのためへの研修参加の案内など、こまめな説明を管理者がしていく。 リスク面、特に「危機管理や虐待防止に繋がることをしているか?」等、虐待防止委員会を中心に行っているアンケートを行い、個々の振り返りをしていくことを継続していく。 			
F. 事業所の 防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練には引き続き近隣の方や自治会の方への参加をお願いしていく。 災害時などの相互の協力体制が構築できるようにしていく。状況に応じては杜の宮が地域の避難場所にもなりうる自覚を持てるようにしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練へは、自治会長・民生委員・福祉委員の方たちの参加があったが、地域の方達との協力体制のもとでの実施はできなかったため、今後も引き続き協力体制の構築に努めていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練には引き続き近隣の方や自治会の方への参加をお願いしていく。 災害時などの相互の協力体制が構築できるようにしていく。状況に応じては杜の宮が地域の避難場所にもなりうる自覚を持てるようにしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練には引き続き近隣の方や自治会の方への参加をお願いしていく。 災害時などの相互の協力体制が構築できるようにしていく。状況に応じては杜の宮が地域の避難場所にもなりうる自覚を持てるようにしていく。 			